

証し 藤原英利子

1955年10月7日生まれ(63歳)

出生地 新潟県糸魚川市

三姉妹の末っ子として生まれました。

父方の祖父母がクリスチャン、母方の曾祖父母も祖父母もクリスチャンでした。しかし、父は「俺はクリスチャンには絶対ならないぞ」と言い、母は中学時代に確信のないまま洗礼を受けたに過ぎず、結婚式は神社で挙げて抵抗感がない状態で結婚生活が始まっていたようです。結婚後9年程経ち、その母が、私が1歳の頃、カナダから宣教師がご家族でいらして下さり、糸魚川に教会が出来たのを知りました。祖母に「教会だけは行きなさい」と言われていたのを思い出した母は礼拝に出席し始め、その後新生体験へと導かれました。母は、娘達に教会へ行く事を強要することはありませんでしたが、「神様がいつも共にいて下さる！」という確固とした信仰を持って、深い祈りを持って子育てしてくれました。

父の転勤で、私が4歳の時東京へ移り、私は大田区の東調布教会幼稚園に通いました。その2年後、さらに世田谷区に引っ越し、日本同盟キリスト教団世田谷中央教会に通いました。

8歳で父親を亡くしていた父は、こよなく家庭を大切にすることで、信仰が与えられた明るい母と共に築いてくれた温かい家族の中で、末っ子の私は、皆から特別に可愛がられて幼少時代を過ごしていたと思います。けれども、私自身は、周囲から『良い子イメージ』を持たれていても、いつも近しい親戚や学校のクラスメートの中に愛せない人がいて、イライラする自分との闘いがありました。表裏のある自分が嫌いでした。



小学校3年生の時、西南福音クルセードで、大衆伝道者本田弘慈先生のメッセージを聴き、イエス様を信じると手を挙げました。その後、中学1年生の夏、松原湖バイブルキャンプに参加し、自分の罪と向き合わされ、悔い改めました。普段の生活に戻ると、すっかりイエス様の事を忘れてしまいました。翌年の夏もやはり松原湖バイブルキャンプに参加し、湖のほとりで静まり、改めて悔い改めの祈りをささげました。私は自分の力では決して愛する事の出来なかった人たちへの頑なに赦せない思いがす〜っと消え、本当に重荷を下ろして楽になりました。イエス様は、こんな私の罪を贖う為に、あの十字架にかかって下さった、その愛が迫って来ました。喜びで満たされました。それが私の救いの原点です。すぐにも洗礼を受けたいと思いましたが、家に帰ると又イエス様の事を忘れてしまうのではないかと恐れしました。1年間祈り求め、受洗に導かれました。通っていた日本同盟キリスト教団世田谷中央教会で、牧師安藤仲市先生から洗礼を授けて頂きました。1970年10月25日でした。

ミッションスクールに通っていたので、担任の先生が、私の洗礼のお祝いに詩篇121篇の書かれた色紙を持っていらして下さいました。そのみことばは、私の人生の節目節目でいつも支えとなり力となってくれています。

私は弱く、つまずきやすく、自分の努力で何とかしようと頑張ってしまうがちですが、多くの方々のお祈りに守られて、信仰を持って歩ませて頂いています。

父は、会社退職後は教会に通い、熱心に聖書を読み、1980年のペンテコステに洗礼を受け、教会の奉仕に励んでいましたが、翌1981年5月1日に胃がんの為63歳で亡くなりました。その臨終の場に付き添わらせてもらった私は、父の顔の輝きから、天国への凱旋を目のあたりにさせて頂いたと思えました。母は2015年1月に脳梗塞で倒れ、その年の9月3日に亡くなりましたが、病床にあっても最後まで「神様が共にいて下さるから私は幸せ100パーセント！」と何度も何度も言い続けていました。

私は、1970年から今日まで48年5ヶ月も信仰生活教会生活を続けさせて頂いているにもかかわらず、成長がなく恥ずかしい気持ちです。でも、様々な人生の紆余曲折の中、時にかなった神様の助けを与えられ、その都度神様が共にいて下さる確信が深まり、すべてのことを感謝して、神様を恐れて、お委ねして生きる素晴らしさを味わっています。

2015年に軽井沢を終の住処と決めてから、この世での最後まで信仰を全うする為の教会を求めて祈っていました。思いがけず、ケーキ教室に加えて頂き、ここで午後礼拝が持たれていることを知りました。2017年8月からは主人と共にバイブルアワーに出席出来る恵みに預かり感謝です。主の山には備えありだと思いましたが、そこで、今まで何度も聞いたことのある聖書箇所からも、まるで初めて耳にするかのように、いつも新しく神様からのメッセージが私の心に響いてきます。力づけられます。たどたどしい私の信仰の歩みではありますが、イエス様にしっかりつながっていきたいので、バイブルハウスで兄弟姉妹の交わりに入れて頂けることが、本当に嬉しく、喜びでいっぱいです。